

振り返って見る八月

過去を振り返って見ることは好きだが、思い出にふけりすぎて「過去の幸せ」や「過去の不幸せ」だけに頭を使うのはあまり好きではない。

とは言っても、時々「五年前は何をしていたっけな？」なんて思いながら日記をめくり返すこともあり、これはこれで自分にとって良い刺激になることもある。

ホームページを作って、更新する度に駄文を添えて友人に送りつけるようになって10年ぐらいになる。

最近では月に一回のペースでホームページ更新の挨拶メッセージを発信しているが、以前は不定期だった。

「何年分かを並べて見ると面白いのではないか？」という友人の助言もあり、暦年のメッセージを読み返してみた。2007年・2008年・2011年・2012年の8月のメッセージ四年分を並べて見ることにした。それぞれの年がどんな年だったのかも思い出することができる。

<1> 2007年はこんな年だった

いつもどおりの暑い夏になりましたが、梅雨明けの「燦々とふりそそぐ陽光」が体験できないままに8月になってしまいました。

「創造スポット T工房」のwebを更新しましたので、暑中見舞いのご挨拶を兼ねて、お知らせいたします。

My Wordsの中に、二つの駄文を追加しました。それぞれの活動の近況と直近の予定をしたためました。

地震・豪雨などの天災の激化に加え、低レベルな議論を繰り返す永田町、さらには争点の怪しげな選挙とその結果などなど、国内は不安定。アメリカではツインシティの鉄橋の落下とこれまた右肩下がりの大統領。世界各国は、何か大きな動きの前兆に差し掛かっているのでしょうか？

例年だと梅雨が明けてしばらくして、田圃の稲穂が頭を下げ始める。畦道を歩いていると、数羽の鷺が驚いて飛び立つ。見上げれば、紺碧の空に白く流麗な肢体が……。

炎天の鷺白光となり翔ける 不軽

梅雨が明けたとは言っても、カラリと晴れ渡る空が体験できなかった7月末。

能登半島地震・新潟中越地震があり、予測を越えた豪雨による甚大な被害など天災が目立ってきた年だった。

<2> 2008年はこんな年だった

人間の体温を超える気温が当たり前ようになってきてしまいました。無事凌いでおいででしょうか？

家々、オフィスビルなどの冷房を28度にしようという動きが出ています。本来の外気温が32度だとして、それを28度にするということだけでも大変なこと。

熱交換された「温度差4度分のエネルギー」が建造物の外に吐き出されるわけです。外気温が本来の温度より上昇してしまう要素としてこんなことも……。

「文化的な暮らし」と称して装備された各種インフラが、今自分達の首を締め始めたのか？

灼熱のアスファルトに柄杓の水をまいて「打ち水復活」を叫んでいる人もいますが、はたして効果のほどはいかがなものでしょうか？敷き詰められたアスファルト舗装をすべて除去すると何度温度が下がるかこんなことを研究した学者さんがいるようです。

炎天の鷺白光となり翔ける 不軽

遠くに積乱雲をうかがう青空に向かって鷺が飛び立つ。その流麗な動きを、汗を流しながら眺めるのも夏らしくて……

「炎天の鷺白光となり翔ける」は、私が大変気に入っている俳句のひとつである。真夏のキラキラした太陽を浴びて、眉間にしわを寄せて陽光に立ち向かうと、どうしてもこの句が頭に浮かんでしまう。

「28度冷房を！！」とか「打ち水で温度を下げよう！！」とか、思い付きで騒ぐ方々がテレビで戯れていた年だった。雷雨・瞬間豪雨・大都会の鉄砲水などなど騒然とした夏でしたが、千葉ではさほどの雨は降らなかった。

<3> 2011年はこんな年だった

「省エネの夏」というふれこみで夏が始まりましたが、皆さんの住む町ではいかがですか？首都圏では、駅の中が暗かったりエレベーターやエスカレーターが部分的に止まっていたり、という光景の反面、電車やお店の冷房は相変わらずの涼しさで、上着を羽織っている人がいる状態。企業のオフィスなどではそれなりの対応がされていたり、一般家庭では努力を積み重ねている方も少なくないようですが・・・。

最近、巷でささやかれている会話「家に居ても暑いから電車に乗ってどこかへ出かけるんだよ」

省エネ意識の浸透のしかたってこんなものでいいのだろうか???

T工房 web を更新して 2011年8月版にしました。

残暑という言葉が聞こえてくると、もう秋が近いと感ずることができる。しかし、残暑という言葉が聞く頃が一番暑い。

かまきりの虚空をにらむ残暑哉 北枝

2011年3月11日、大震災が発生。地震の直接の被害のほかに、原子力発電所の被害による様々な出来事が日本列島を走りまくった。震災発生から5カ月になる8月、「まだ被害の後遺症が残っている」場面も少なくない反面、早くも「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ような場面が散見する夏だった。

<4> 2012年はこんな年だった

「暑いですねえ」と言えば挨拶になってしまい、会話も弾む。見知らぬ老婆とすれ違う時に「暑いですねえ」と言うと、暑い所に立ち止まって今日の行動予定を説明してくれる。

炎天下に立ち止まって身の上話を喋り始める、かえって暑さが増すのに・・・。

会話が弾むのには共通の話題が必要だし、共通の話題があれば会話の糸口が見つかるというもの。ずいぶん知らない人と知り合いになったこの夏。

T工房 web を更新して 2012年8月版といたしました。

少しばかり新しいものが登場していますのでおひまな時にでもご賞味下さい。

みんなたっしやでかぼちゃの花も 山頭火

灼熱の太陽の下で、長く複雑な蔓を伸ばして食欲に大地の味を吸い上げて咲く「かぼちゃの花」。

暑中見舞いの挨拶代わりに山頭火の一句を添えて お届けいたします。

家の近くですれ違った人には必ず声をかけるようにし始めたのがこの頃だったかもしれない。それから二年の時が流れ、随分知り合いが増えたような気がする。最近では、通学途中の小中学生が「おはようございます」とか「こんにちは」とか声をかけてくれるようになった。

大震災の後で学んだ、「向こう三軒両隣」の日々の連携と、「声をかけ合う心」。

以上